第11号様式（第12条関係）

事業活動実績報告書

施 設 名	あすなろ幼稚園
教育理念	「さがそうよ、キラキラのじぶん」主体性・共生性・体力を育む

事業の区分（5領域）	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	自分と向き合い、人に向き合おう
2 実施期間	令和 5年 4月 1日 ～ 令和 6年3月31日

3 取組概要

（取組日） 令和5年6月15日 ～ 令和5年6月15日

（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

幼稚園の隣で、普段から境内でも遊び、園生活でも身近な本堂だが、 園児が中に入るのは年に2回で、その1回が弘法大師生誕日6月15日。 滅多にない機会だからこそ、幼稚園とは違う本堂の雰囲気や、いつもと違う 住職や副住職の雰囲気を感じ取り、椅子に姿勢を正して座ることや正座、 大きな声を出さないなど、それに相応しい態度を取る体験を通し 「場の空気を読んで相手を不快にさせない振る舞い」を学ぶ。
全学年の園児が瞑想法「阿字観」の第一歩として、1分目を瞑って黙ってみる その間「何を考えてもいい」と伝えておき 瞑想後に何を考えていたか聞く。その答えこそが今自分の心に浮かんできたことで、今自分が考えたいことなのだ、と伝えると、園児は一様にびっくりした顔をする。つまり、園児はこのとき初めて（もしくは改めて）自分の中の「こころ」 の存在を認知し、それが自分の思うままにならないことを体感する。
その後、園児は甘茶を飲む体験をする

（取組日） 令和6年1月16日 ～ 令和6年1月18日

（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

年長クラスがクラスごとに 「鐘撞き堂で一人1回鐘が撞き、お菓子とミカンを食べる」「住職のお茶とお菓子とミカンのおもてなしを受ける」
「住職の有り難くて長い話を聞いてからお菓子とミカンを頂く」等を年度末に体験する。 そこで住職から「人生とは」という話を聞く。

（取組日） 令和6年1月16日 ～ 令和6年1月18日

（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

年長クラスが住職の指導の元、お書初めに挑戦する。
お題目は「友だち」とし、そこに自分の名前も書く。
書き初めに臨むに当たり、自分自身を形作るのは自分だけではなく、周囲の友だちによって自分が形成される、といった主旨の話を住職から聞き、その尊さを感じながら真っ白な書き初め半紙に向き合う。作品は全員分を飾り、互いの作品を見合い、保護者にも公開する。

（取組日） 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日

（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

写真添付
活動内容が分かるもの
取組に関するもの

第13号様式（第12条関係）

効果検証報告書

施　設　名	あすなろ幼稚園
教 育 理 念	「さがそうよ、キラキラのじぶん」主体性・共生性・体力を育む

	事業の区分（5領域）	健康　・　人間関係　・　環境　・　言葉　・　表現
	1 事業名	自分と向き合い、人に向き合おう
	2 事業概要	令和　5年　4月　1日　～　令和　6年3月31日
計画時	3 実施体制	取組に必要な環境（人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等）の保有状況 ・妙厳寺住職（名誉理事長）、妙厳寺副住職（職員） ・甘茶補助（職員2名） ・鐘撞補助（職員1名）
事業後	3についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・今年度より、青葉祭り参加者を全学年対象としたため、特に満三歳クラスの甘茶体験や本堂体験において保育補助が予想以上に必要となった。 ・本取り組みについて、園だよりにて保護者に詳しく伝えたところ、「心とは…」といった家庭での会話に繋がったという報告を受けたので、次年度はより保護者の方へ活動の理解を深めていきたい ・書き初め用半紙は手に入る時期が限られているので注意が必要。
計画時	4 事業のねらい	・「場の空気を読み、相手を不快にさせない振る舞い」を学ぶ。 ・瞑想体験から自分の心と向き合い、心を知る ・立ち止まって、今とこれからを考える体験を通し、能動的に幸せになろうとする
事業後	4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・本取り組みについて、園だよりにて保護者に詳しく伝えたところ、「心とは…」といった家庭での会話に繋がったという報告を受けたので、次年度はより保護者の方へ活動の理解を深めていきたい ・本活動が卒園式でも話題となり、就学に向けた活動にもつながっている実感を得た。
	5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ・幼稚園の隣で、普段から境内でも遊び、園生活でも身近な本堂だが、園児が中に入るのは弘法大師生誕日6月15日と年度末の1年に2回。滅多にない機会だからこそ、幼稚園とは違う本堂の雰囲気や、いつもと違う住職や副住職の雰囲気を感じ取り、椅子に姿勢を正して座ることや正座、大きな声を出さないなど、それに相応しい態度を取る体験を通し「場の空気を読んで相手を不快にさせない振る舞い」を学ぶ。 ・真言宗に伝わる瞑想法「阿字観」の第一歩として、1分目を瞑って黙ってみる。これを満3クラスも含め全学年行う。その間「何を考えてもいい」と伝えておき瞑想後に何を考えていたか聞く。その答えこそが今自分の心に浮かんできたことで、今自分が考えたいことなのだ、と伝えると、園児は一様にびっくりした顔をする。つまり、園児はこのとき初めて（もしくは改めて）自分の中の「こころ」の存在を認知し、それが自分の思うままにならないことを体感する。 ・年長クラスがクラスごとに 「鐘撞き堂で一人1回鐘が撞き、お菓子とミカンを食べる」「住職のお茶とお菓子とミカンのおもてなしを受ける」「住職の有り難くて長い話を聞いてからお菓子とミカンを頂く」等を年度末に体験する。 そこで住職から「人生とは」という話を聞く。 ・「書き初め」は住職から「自分自身を形作るのは自分だけではなく、周囲の友だちによって自分が作られている」旨の話を聞き、お題目「友だち」と自分の名前を書き初め用半紙に自分自身と向き合いながら臨む。半紙の予備は基本用意せず、一発勝負の緊張感を味わう。活動後は全作品を掲示し、互いに見合うとともに、保護者にも公開する

事業後	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・全学年を対象としたことが本年度から、ということで満三歳クラスの子ども達にどうアプローチするのか、懸念事項であり、工夫が必要だったが、こちらの予想以上に活動をしっかり満喫していたことを感じた。幼いからと言って子ども扱いせず、幼いからこそ、しっかり一人ひとりの心に向き合っていく必要を学んだ。 ・コロナ禍を経て書き初め全員分を本年より全保護者公開に踏み切ったことで好評を頂いた。

計画時	6 環境構成	・当園は宗教園を謳っていないため、年に2回の本事業に対し、抵抗を覚える家庭もある可能性があるため、事前に本事業の趣旨と拒絶する権利があることを周知しておく ・宗教上等の理由から甘茶を飲めない家庭もある可能性があるため、事前に甘茶を飲ませてよいか各家庭に確認しておく ・当日、甘茶を子どもが飲んでもあまり抵抗のないような濃度で作っておく ・本堂を子どもが入っても、また甘茶を零されても良いようにビニールシート等で保護しておく。 ・書き初めを取り組む部屋にビニールシートを敷き詰め、乾かす時に多額年児が入らないよう配慮する
事業後	6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・今年度は在園児に宗教的観点から本事業に抵抗を覚える家庭はなかったが、多種多様な宗教的背景を持つご家庭の園児をお預かりすることを考慮し今後も保護者に対し、丁寧に説明をしていく必要がある。 ・特に満三歳クラスの甘茶補助は手厚く人員を確保することで他学年に対しても一人ひとりの甘茶体験がより豊かになる。

7	期待される効果児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ・体験後に各家庭で本事業のことを話し合うなど、その場だけのものではなく家族で人生や日常を立ち止まるきっかけになればと願う。 ・これから体験する様々な初めての場所においても、その場に相応しい態度を図れるようになればと願う。
事業後	7についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・園だよりやHPのアルバムコーナーで写真と共に様子を伝えることで、年中・年長の御家庭だけでなく、満三歳クラスや年少のご家庭での本事業についての会話いや振り返りなど、期待以上の効果や反響があった。 ・その後の園外での集団行動においての態度や、園内に見学者を迎えた時の対応など、園児一人一人が自分でその時その場に相応しい態度を考える一助になった。

8	効果検証総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて ・普段身近に見てはいても入ることのない本堂という宗教施設に入り、住職の話を聞いたり、甘茶やお菓子やみかんで「おもてなし」をうけたりするという、「大人扱い」「お客様扱い」といった、園児にとって自分たちが通常されていない上級もしくは上等の「扱い」を受けることによって、それに見合う振る舞いをしたい、という園児一人ひとりの主体的な思いを育めるのだ、ということを逆に園児の姿から園側が学んだ。 日常は日常として丁寧に積み重ねつつ、時折こうした「非日常」を園生活に盛り込むことで、今後の人生で降りかかってくるだろうイレギュラーな場面でも一人一人が自分で自分のふるまいを考え判断し、行動できるための経験値を積めると実感できた。 そのための機会であれば、究極、宗教施設でなくても話を聞くのが住職でなくても良いのだと思う。（例えば美術館や学芸員でも） ただ、園児が施設内のものを壊してしまうとか話す相手に失礼を働くといったリスクを、本事業であれば、それを承知の上で行うことが出来る、というところに、当園の強み、特色が活かされると感じた。 ・書き初めは、まず体験することが園児の経験値となり、意義があると思うが、その出来いかんではなく、あくまでも取り組む姿勢や自分自身と向き合う機会としての価値を置くことにより、さらに一人ひとりの心の財産になっていくと感じた